

クロバネキノコバエ類について（情報提供）

夏季において、藤岡地区、小原地区等を中心にクロバネキノコバエ類（大きさ1～2mm）が大量発生することがあります。

そのため、クロバネキノコバエ類の対処方法について、下記のとおり、情報提供いたします。

なお、このクロバネキノコバエ類は、刺すなど人に被害をおよぼすことはありません。

記

1 特徴及び生態

(1) 特徴

- ・体長、体色 1～2mm、黒～暗褐色
- ・寿命 4～10日程度（成虫）



（実際の大きさ）



（拡大）

(2) 生態

- ・このクロバネキノコバエ類の幼虫は、一般に朽木の腐った部分や有機質に富んだ土壌中の腐食物などを食べていると考えられます。
- ・畑や植木鉢などから発生することも考えられますが、発生源は特定されていません。
- ・梅雨時期に多く見られるとの情報が寄せられています。
- ・※クロバネキノコバエ類は、発生場所など不明な点も多く、駆除することが難しい虫です。

2 防除・侵入防止策

発生時間は、日の出から午前10時ぐらいまでと言われているため、この時間帯に対処することが重要になります。

- ・窓やドアを閉めることで、侵入数を減らすことができます。
- ・侵入経路となる窓やドアに向かって、扇風機等により風を送ります。窓やドアの下部の隙間から這って侵入してくる成虫に対しては、下向きの風が有効と考えられます。
- ・屋内に大量進入したときは殺虫剤で駆除することはできますが、効果は一過性です。
- ・大量の薬剤を広範囲にわたって散布し駆除を行うことは非常に困難で、健康被害も懸念されるため、避けたほうが良いです。